

慶應義塾大学

保健管理センター年報

Annual Report of Keio University Health Center



2024

慶應義塾大学保健管理センター年報

Annual Report of Keio University Health Center

2024

目 次

巻頭言	広瀬 寛
-----	------

I 本編

第 1. 大学保健管理業務	3
第 2. 一貫教育校保健管理業務	7
第 3. 感染症対策	9
第 4. 環境衛生業務	10
第 5. 教育	12
第 6. 研究	13
(第 7. 会議, 第 8. 関連資料は資料編のみ)	
第 9. 慶應義塾診療所	14

II 資料編

第 1. 大学保健管理業務	
1. 年間主要業務	15
(1) 本部 (日吉)	
(2) 三田分室	
(3) 湘南藤沢分室 (看護医療学部分室を含む)	
(4) 信濃町分室	
(5) 矢上分室	
(6) 芝共立分室	
2. 学生定期健康診断	21
(1) 学生定期健康診断実施項目一覧	
(2) 学生定期健康診断受診状況	
(3) 学生定期健康診断の流れ	
(4) 学生定期健康診断 各検査の管理区分 C 判定集計	
(5) 学生定期健康診断 生活区分, 現病歴, 障害者の状況	
(6) 学生定期健康診断 二次検査等フォローアップ件数	
(7) 学生定期健康診断 結果報告書配布数・WEB 閲覧件数	
(8) 学生定期健康診断 健康診断証明書発行数	
(9) ライフスタイル調査結果	

3. 教職員定期生活習慣病健康診断	28
(1) 教職員定期生活習慣病健康診断実施項目一覧	
(2) 教職員定期生活習慣病健康診断受診状況	
(3) 教職員健康診断の流れ	
(4) 教職員定期健康診断集計	
(5) 医師面接実施状況	
(6) 特定保健指導	
(7) 消化器系検査	
(8) 女性教職員検診	
(9) 参考資料	
4. その他の健康診断	38
(1) 雇入時の健康診断	
(2) 特定業務従事者の健康診断	
(3) 海外派遣労働者の健康診断	
(4) 特殊健康診断	
(5) 病原体・遺伝子組換え実験業務従事者の健康診断	
(6) 透析施設スタッフの肝炎検査	
5. 産業保健活動	40
6. 各種行事等救護状況	41
7. 女性のからだ・男性のからだ相談室利用者数	42
8. SOGI（性的指向・性自認）相談室利用者数	42
9. 教職員カウンセリング利用者数	42
10. 保健相談・応急処置等	42
第2. 一貫教育校保健管理業務	
1. 年間主要業務	43
(1) 幼稚舎分室	
(2) 横浜初等部分室	
(3) 普通部分室	
(4) 中等部分室	
(5) 湘南藤沢中等部分室	
(6) 湘南藤沢高等部分室	
(7) 高等学校分室	
(8) 志木高等学校分室	
(9) 女子高等学校分室	
2. 保健室利用状況	52
(1) 幼稚舎分室	
(2) 横浜初等部分室	
(3) 普通部分室	
(4) 中等部分室	
(5) 湘南藤沢中等部・高等部分室	
(6) 医療機関に依頼した外傷内訳 (幼稚舎分室・横浜初等部分室・普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)	
(7) 精神保健相談 (幼稚舎分室・横浜初等部分室・普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)	

(8) 高等学校分室	
(9) 志木高等学校分室	
(10) 女子高等学校分室	
(11) 精神保健相談	
(高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室・湘南藤沢高等部分室)	
(12) 保健室で対応した面接等の事例数	
(高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室)	
(13) 保健室利用一覧	
3. 児童・生徒定期健康診断	65
(1) 小学校(幼稚舎分室・横浜初等部分室)・	
中学校(普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)	
(2) 高校(高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室・湘南藤沢高等部分室)	
第3. 感染症対策	
1. 学校において予防すべき感染症, および院内感染症対応(登校・就業許可面接)	71
(1) 登校・就業許可面接数	
(2) 大学および病院 大学生・教職員の感染症対策	
(3) 一貫教育校 児童・生徒・教職員の感染症対策	
2. 結核対応	73
(1) 結核スクリーニング	
(2) 結核接触者健康診断	
3. ワクチンで予防できる感染症対応	75
(1) 麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘ウイルス対応	
(2) B型肝炎ウイルス対応	
(3) インフルエンザウイルス対応	
4. 血液曝露対応	79
5. 腸管感染症対応	79
第4. 環境衛生業務	
1. 教室等の調査	81
2. 食堂の調査	83
第5. 教育	
1. 大学講義	85
2. 予防医療センター	90
3. 集団保健衛生教育	91
第6. 研究	
1. 保健管理センター教職員研究業績	97
2. 保健管理センター研究会	101
3. 保健管理センター研修会	101

第7. 会議

1. 保健管理センター運営委員会	103
2. 業務連絡会	103
3. 幹事会・執行部会	104
4. 人事委員会	104
5. 看護職総会	104
6. 対外的活動	105
7. ワーキンググループ	105

第8. 関連資料

1. 慶應義塾組織図	107
2. 慶應義塾大学保健管理センター規程	108
3. 大学保健管理センター人事委員会内規	111
4. 保健管理センター教職員一覧	112
5. 保健管理センター人事	113
6. 保健管理センター配置図	114

第9. 慶應義塾診療所

1. 診療所について	115
2. 慶應義塾診療所規程	116
3. 診療所等受診者数	118
4. 精神・神経科受診者数	119
5. 外部医療機関依頼数	119
6. 診断書，公文書発行など	119
7. 慶應義塾診療所管理委員会記録	120

編集後記	中島 清隆
------------	-------

巻 頭 言

慶應義塾大学保健管理センター

所長・教授 広 瀬 寛

慶應義塾大学保健管理センター年報2024ができ上がりました。2024年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の、特に重症者はだいぶ減りました。一方で、冬場のインフルエンザが流行しました。

学生健康診断は、例年のように4月から各キャンパスで実施することができ、一日の受診者数には限界があるところですが、大学のガイダンス期間も加味して、受診率の向上に努力しました。一貫教育校の生徒・児童健康診断は、一部の項目を除きCOVID-19流行以前の状態に戻りました。教職員健康診断については、WEB上での予約や問診が充実し、比較的混雑することなく実施できました。感染症対策ではCOVID-19が2023年5月8日から感染症法に基づく分類で2類相当から5類に見直されましたが、日常生活がCOVID-19流行前のような状態に戻っていくにつれ、小中学校をはじめとしてインフルエンザなど以前に流行していた学校感染症が増加し、対応が必要な状況となりました。環境衛生業務では、教室調査は以前のように多くの学生が授業を受けている中で実施できるようになりました。食堂調査も例年通りの時期に実施できました。産業保健活動では、職場巡視はCOVID-19流行前のような状態にほぼ戻りましたが、衛生委員会などの会議は利便性もあって、オンライン開催が継続されている地区も多い状況です。教育関係では、保健管理センターの設置講座もすっかり対面授業に戻りました。他部署と共同で行っている講座などは2022年から対面授業を再開しています。衛生講習会やBLS講習会、一貫教育校における保護者向けの講演会などもCOVID-19流行前のように対面で実施するようになりました。研究に関しては、本誌の資料編で紹介している「業績」をご覧ください。保健管理センターの会議は、スタッフの移動を減らす目的で、オンライン開催を継続しています。

2024年度中の教員人事では、2024年4月1日付で葭葉茂樹医師、木下眞里医師および小杉将太郎医師が着任しました。また、2025年3月31日付で森正明医師、横山裕一医師および西村由貴医師が退職いたしました。2023年10月1日から私が所長を拝命し、COVID-19の流行は収まりつつもいろいろと大変な時期ではありましたが、スタッフの皆様の努力と関係者の皆様のお力添えのおかげで大きな混乱もなく業務をこなすことができたかと思っています。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

今後も義塾の発展とともに保健管理センターに求められる課題は増え続け、さらに重くなる役割を担うために進化し続けていく必要があるだろうと考えています。関係者の皆様には、引き続きご指導・ご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。なお、今回の年報につきましても、ご意見などがありましたら遠慮なくお寄せください。

I 本編

第 1. 大学保健管理業務

第 2. 一貫教育校保健管理業務

第 3. 感染症対策

第 4. 環境衛生業務

第 5. 教育

第 6. 研究

(第 7. 会議, 第 8. 関連資料は資料編のみ)

第 9. 慶應義塾診療所

第 1．大学保健管理業務

1. 学生定期健康診断

(1) 実施項目

2024 年度は昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症流行時に密集形成回避のために省略せざるを得なかった血圧、視力、内科診察などの項目についても全学年を対象として実施することができた。

(2) 受診状況

学部生の対象者数 28,975 人、受診者 17,356 人（受診率 59.9%，男子 58.2%，女子 62.8%）であり、昨年（受診率 60.8%）と比較して低下した。但し、医学部、薬学部、看護医療学部の医療系学部では、各々 99.3%，92.8%，97.6%と高い受診率を維持した。大学院修士課程生、大学院博士課程生、専門職学位課程生の受診率は、67.7%（昨年：68.3%）、60.3%（61.8%）、45.1%（53.8%）であり、昨年度と比較して低下した。

(3) 事後措置のまとめ

本健診後には必要に応じ、再検査、精密検査、医師面接、外部医療機関紹介などを行う。各検査項目における管理区分 C 判定（異常所見あり）の割合、および二次検査、フォローアップ検査などの精密検査や管理が必要と判断された件数は昨年度と概ね同等であった。また、生活区分、現病歴、障害の観点から何らかの配慮が必要と判断された者の人数についても例年と概ね同等であった。

(4) 結果報告書配布数・WEB 閲覧件数

本健診結果返却は本センター各地区の窓口返却とスマートフォンでもアクセス可能な WEB 閲覧の方法がある。WEB 閲覧を開始した 2007 年度以降、窓口返却は減少し、2024 年度は 0 件（昨年は 1 件）となった。WEB 閲覧は 10,328 件であり、昨年度（8,550 件）より増加した。

(5) 健康診断証明書発行数

全キャンパスにおける保健管理センターの窓口発行は 72 枚、学内印刷・コンビニエンスストア発行は 1,319 枚であり、窓口発行のほうが少ない。

(6) ライフスタイル調査結果

学生の飲酒や喫煙習慣、睡眠や食事などライフスタイルに関する WEB 問診の結果は、昨年から特段の変化はなかった。

新型コロナウイルス感染症流行前である 2019 年の学部生、大学院修士課程生、大学院博士課程生、専門職学位課程生の健診受診率は 84.4%，84.9%，65.2%，76.2%であったが、その後減少した状態が続いている。また、健康診断結果の閲覧および報告書窓口配布件数については、本年は 49.9%の閲覧にとどまった。健康診断受診率および結果閲覧率の低い状況が続いており、自身の健康への関心度を高める対策が必要である。

（武田彩乃）

2. 教職員定期生活習慣病健康診断

(1) 受診状況

2024 年度の慶應義塾全体の受診率は 94.8%であり、2023 年度（94.4%）に比べ 0.4%上昇した。地区別受診率は芝共立地区、志木地区が 100.0%、三田地区が 96.8%、矢上地区が 95.8%、湘南藤沢地区が 95.4%、日吉地区が 95.1%、信濃町地区が 93.6%であった。一貫教育校所属教職員の受診率は 99.5%と 2023 年度と比べ全地区の受診率が上昇した。就業制限指示者は全地区で 2 名であった。

(2) 生活習慣病健康診断集計

身長・体重、腹囲、視力、聴力、胸部 X 線検査、血圧、検尿、心電図、心音の有所見者の割合は 2023 年度と大きな変化はなかった。その内、視力の C 判定（右または左の視力が 0.7 未満）が 13.9%と上昇し 2024 年度も 10%を超えていた。一方、2020 年度は 10%を超えていた、血圧の C 判定（収縮期血圧 140mmHg 以上かつ/または拡張期血圧 90mmHg 以上）は、2024 年度は 8.5%であり、2021 年度以降 10%未満を維持している。

血液検査の有所見者の割合は 2023 年度と大きな変化はなく、血液検査で異常値が認められる割合が高い検査は脂質関係、肝臓関係、腎臓関係であった。TG300mg/dL 以上、または HDL コレステロール 34mg/dL 以下、または LDL コレステロール 160mg/dL 以上が脂質関係の C 判定となるが、男性で 13.2%、女性で 8.9%、合計で 10.8%であった。TB2.5U/L 以上、または AST60U/L 以上、または ALT60U/L 以上、または ALP136U/L 以上、または γ -GTP160U/L 以上（男性）、90U/L 以上（女性）が肝臓関係の C 判定となるが、男性で 8.0%、女性で 3.1%、合計で 5.3%であった。eGFR が 59.9mL/min 以下が腎臓関連の C 判定となるが、男性で 8.7%、女性で 5.7%、合計で 7.0%であった。これら C 判定の割合は、男性、女性、合計いずれも 2023 年度に比べ、肝臓関係は横ばいだったが、脂質関係は微増し腎臓関係は増加した。

(3) 特定健康診査

40 歳以上 65 歳未満の受診者は 3,608 人（男性 1,758 人、女性 1,850 人）であった。40 歳以上 65 歳未満のメタボリックシンドロームと診断された人は、男性で 251 人（14.3%）、女性で 66 人（3.6%）、合計で 317 人（8.8%）であった。積極的支援レベルが男性で 150 人（8.5%）、女性で 39 人（2.1%）、合計で 189 人（5.2%）であった。動機付け支援レベルが男性で 202 人（11.5%）、女性で 97 人（5.2%）、合計で 299 人（8.3%）であった。

保健管理センターにおける 2024 年度の特定保健指導の初回指導は 117 件実施され、2023 年度（71 件）に比べて増加した。

(4) その他

定期健康診断後の管理状況は、面接指示者 1,198 人に対し、面接を実施した件数は 486 人であった。年齢 40 歳以上の健保加入者は消化器系検査の受検資格があり、希望者は上部消化管検査、腹部超音波検査を受検した。年齢 35 歳以上の健保加入者は大腸がんスクリーニング（便潜血検査）の受検資格があり、希望者が受検した。

（中村真理）

3. その他の活動等

（1）その他の健康診断

2024 年度は、常時深夜業に従事する者等を対象とする特定業務従事者の健康診断を信濃町地区で 2,026 件実施した。また、電離放射線取扱いは、特定化学物質取扱いは、有機溶剤取扱いは、鉛取扱いは対象とする特殊健康診断、病原体・遺伝子組み換え実験業務従事者を対象とする健康診断も実施した。電離放射線取扱いは、健康診断の件数は、教職員を中心に信濃町地区で多く、病原体・遺伝子組み換え実験業務従事者の健康診断の件数は、学生を中心に矢上地区、教職員を中心に信濃町地区で多かった。特定化学物質取扱いは、有機溶剤取扱いは、健康診断の件数は、学生を中心に矢上地区で多かった。

「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」（六訂版）において、スタッフのウイルス肝炎について定期的な検査を行うことが推奨されており、2024年度より血液浄化・透析センタースタッフに対し実施を開始し、事後措置対象者はいなかった。

（2）産業保健活動

産業医面接（労働安全衛生規則第14条）は職場の上長や本人からの申し出があった場合と、長時間労働を行った教職員に対して、産業医による面接を行っている。具体的には、内科疾患または精神科疾患による休職後復職者、過重労働者、メンタル不調者等を対象に実施し、必要に応じて、総括安全衛生管理者に対して勧告し、又は衛生管理者に対して指導し、若しくは助言を行っている。

2024 年 4 月より、医師の働き方改革において長時間労働の医師の労働時間短縮及び健康確保のための措置の整備等の一環として、当該月に 100 時間以上の時間外・休日労働を行った医師の長時間労働者面接を開始した。

労働者の心の健康保持（労働安全衛生法第 66 条）は職業性ストレス簡易調査票（57 項目）によるストレスチェックを実施し、教職員の心の健康保持を図っている。

（3）各種行事等の救護状況

保健管理センターでは、各種行事（入学式、卒業式、入学試験等）の救護活動を行っている。2024 年度の救護件数としては、大学学部一般選抜試験が一番多く、62 件（日吉本部 42 件、三田分室 20 件）であった。

（4）女性のからだ・男性のからだ相談室、SOGI（性的指向・性自認）相談室

協生環境推進室との共同事業として、教職員・学生を対象に、2022 年 1 月より女性のからだ・男性のからだに関する健康相談を、2023 年 7 月より SOGI（性的指向・性自認）の相談を開始した。からだ相談は慶應義塾大学病院の産婦人科医師・乳腺外科医師・泌尿器科医師が担当し、SOGI 相談は慶應義塾大学病院の精神神経科医師・形成外科医師が担当している。2024 年 4 月から 2025 年 3 月までのからだ相談室利用者数は合計 21 件、2024 年 7 月から 2025 年 3 月までの SOGI 相談室利用者数は合計 1 件であった。

（5）教職員カウンセリング

教職員健保加入者（信濃町地区を除く）を対象とした教職員カウンセリングが再開され、2024 年 4 月から 2025 年 3 月までの利用者数は合計 54 件であった。

(6) 保健相談・応急処置等

2023 年度に続いて、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた教職員・学生の登校機会が増加した。そのため、2024 年度は、投薬（市販薬）は 28 件、処置（外傷の消毒、湿布等の処置、爪きり使用、検温等）は 612 件であり、2023 年度（投薬 23 件、処置 574 件）と投薬はほぼ同等だが、処置件数は増加した。ベッド休養は 530 件で、2023 年度（495 件）に比べ増加した。保健相談等（受付窓口や電話での相談、投薬・処置・ベッド休養が生じない健康相談、保健指導、病院案内等）は 383 件で、2023 年度（429 件）に比べわずかに減少した。

（中村真理）

第2．一貫教育校保健管理業務

1. 小・中学校

(1) 2024 年度定期健康診断のまとめ

ア．保健統計調査

(ア) 身長

一貫教育小中学校において、男女ともに全国平均値（2024 年度）に比べて概ね高い傾向であった。

(イ) 体重

男子は小学校において、女子は小中学校において、全国平均値に比べて概ね少ない傾向であった。

(ウ) 栄養

肥満傾向（肥満度+20%以上）の頻度は、幼稚舎：男 2.1%，女 0.7%，横浜初等部：男 2.6%，女 0.4%，普通部：男 7.7%，中等部：男 7.4%，女 0.7%，湘南藤沢中等部：男 7.9%，女 3.7% で、全国平均値（小学生：男 9.5%，女 7.8%，中学生：男 11.7%，女 8.5%）に比べて少なく，栄養不良（やせ傾向）（肥満度-20%以下）の頻度は、幼稚舎：男 2.3%，女 2.5%，横浜初等部：男 2.1%，女 0.4%，普通部：男 4.1%，中等部：男 2.3%，女 3.9%，湘南藤沢中等部：男 5.1%，女 5.1% で、全国平均値（小学生：男 1.7%，女 1.8%，中学生：男 3.4%，女 3.8%）に比べて概ね同等～やや多かった。

(エ) 視力

裸眼視力 1.0 未満の頻度は、幼稚舎：男 30.2%，女 31.1%，横浜初等部：男 30.4%，女 36.5%，普通部：男 76.5%，中等部：男 70.3%，女 61.8%，湘南藤沢中等部：男 61.6%，女 71.9% で、全国平均値（小学生：36.8%，中学生：60.6）に比べて、小学生では同等～少ない，中学生では同等～多い傾向であった。

(オ) 歯科

未処置う歯の保有率は、幼稚舎：男 5.1%，女 8.4%，横浜初等部：男 5.9%，女 3.7%，普通部：男 4.6%，中等部：男 2.6%，女 1.4%，湘南藤沢中等部：男 3.6%，女 2.7% で、全国平均値（小学生：男 17.1%，女 15.9%，中学生：男 10.1%，女 10.7%）に比べて少なかった。

イ．結核健診

計 30 人を対象に精密検査（胸部X線検査）を実施した。受検理由の内訳は、BCG 未接種（22 人），海外結核高蔓延国での居住歴（9 人）であった（重複 1 人あり）。最終結果は全員異常なしであった。

ウ．血液検査結果

2023 年度から小学校では 4 年生を対象として実施している（中学生では 1 年生）。ウイルス抗体価検査では、流行性耳下腺炎抗体陰性者（幼稚舎 52.1%，横浜初等部 34.0%，普通部 55.8%，中等部 48.7%，湘南藤沢中等部 44.9%），および水痘ウイルス抗体陰性者（幼稚舎 79.5%，横浜初等部 85.4%，普通部 44.2%，中等部 45.7%，湘南藤沢中等部 47.7%）において多かった。

(2) 2024 年度保健室利用状況，他

年間来室者数はすべての小中学校で昨年度と比べて同等～やや減少した。特に小学校においてインフルエンザなどに関連した学級閉鎖が目立った。

（井ノ口美香子）

2. 高校

(1) 2024 年度定期健康診断のまとめ

ア. 保健統計調査

2024 年度の学校保健統計調査（全国）の結果と比較した。身長は、高校の男子、女子ともに、全ての学年において、全国平均値と比較し高かった。体重は、高等学校の全学年、志木高の2年生、湘南藤沢高等部男子1年生および3年生で全国平均を上回っていた。高校の女子では、湘南藤沢高等部女子1年生が全国平均値と同等であった以外、全ての学校および学年で全国平均値を下回った。肥満傾向にあるものについては、男女ともに全国平均を下回り、やせ傾向にあるものは男女ともに全国平均を上回っていた。全体の傾向としては概ね例年通りであった。

イ. 生徒定期健康診断受診・管理状況

各高校の受診率はほぼ100%であった。全校において血液検査の実施を含め新型コロナウイルス感染症拡大前の通り実施することができた。再検査対象者の割合は、女子高を除く全ての高校の検尿、高等学校の血圧が昨年度と比較して増加し、志木高校の血圧が低下していた以外は大きな変化はなかった。

ウ. 血液検査結果

高等学校については、2020 年度から 2023 年度まで血液検査未実施のため 2019 年度と比較した。その結果、異常値を認めた生徒の比率は LDL コレステロール高値、HDL コレステロール低値、尿酸値高値、クレアチニン高値について、いずれも減少していた。その他の高校では、2023 年度と比較し、LDL コレステロール高値について、女子高で増加し、湘南藤沢高等部女子で減少していた。

(2) 2024 年度保健室利用状況

保健室利用状況は、各高校とも昨年度に比べ増加していた。生徒数の多い高等学校が年間来室者数 1,702 人、一日あたりの平均来室者数 11.5 人で 4 校中一番多かったが、一人あたりの平均年間来室回数は 0.8 回で、志木高と同じく一番少なかった。

昨年度に比べ、インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染者発生による学級閉鎖は少なく、高等学校はインフルエンザ罹患者発生による学級閉鎖を 12 月に 13 回、志木高校はインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症罹患者発生による学級閉鎖を 10 月～1 月に 12 回行った。女子高ではインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染者発生による学級閉鎖を行わなかった。

精神保健相談に関しては、前年度と比較して、全ての高校において事例数および延べ件数いずれも減少した。相談内容で一番多いものは、全ての高校において、学校生活・友人関係であった。

保健室で対応した面接等の事例に関しては昨年度と概ね同様の傾向であった。生徒との面接事例は、登校許可面接や身体計測が大半を占めた。教職員との面接事項では、生徒や学校運営に関する相談が多かった。

(後藤伸子)

第3．感染症対策

1. 学校において予防すべき感染症，および院内感染症対応

学校保健安全法，および感染症法で規定された感染症に罹患した塾生・教職員を対象に，登校・就業許可の面接を実施した。大学および大学病院の学生・教職員の面接数は 1,670 件，一貫教育校の児童・生徒・教職員の面接件数は 1,360 件であった。感染症別の大学および大学病院の学生・教職員の面接件数は新型コロナウイルス感染症が最も多く，1,002 件，次にインフルエンザが多く，576 件であった。感染症別の一貫教育校の児童・生徒・教職員の面接件数では，インフルエンザが最も多く，892 件，次に新型コロナウイルス感染症が多く，389 件であった。

2. 結核対応

信濃町地区の新規採用者・異動者，医療系学部学生・大学院生の 1 年生・編入生・転科生を対象に，結核スクリーニングとしてインターフェロン γ 遊離試験を 1,016 件実施した。感染性の高い結核患者との接触者に実施される結核接触者健康診断は新規，過去からの継続も併せ 0 件であった。

3. ワクチンで予防できる感染症対応

麻疹，流行性耳下腺炎，風疹，水痘のワクチン接種を，信濃町分室で教職員・大学院生・医療系学部学生を対象に 28 人に実施した。2022 年度から医療系学部生，医療系大学院生，教職課程生の希望者を対象に，麻疹，流行性耳下腺炎，風疹，水痘のワクチン接種を開始しており，2024 年度は日吉本部で 156 人，湘南藤沢分室で 113 人，三田分室で 2 人に接種した。ワクチン接種数の内訳は，流行性耳下腺炎ワクチンが 246 人，水痘ワクチンが 213 人，麻疹・風疹混合ワクチンが 26 人，麻疹ワクチンが 10 人，風疹ワクチンが 2 人であった。

一貫教育校の小学生・中学生，一部の高校生を対象に，麻疹，流行性耳下腺炎，風疹，水痘の抗体価検査を実施し，免疫が感染防御に不十分と判断された者には，原則，ワクチン接種を推奨した。

例年通り，医療系学部・大学院学生，教職員の予防接種として B 型肝炎ワクチン接種を実施した。延べ 990 人に接種した。医療従事者を対象に信濃町地区で，インフルエンザワクチン接種を 3,326 人に実施した。

4. 血液曝露対応

慶應義塾大学病院での血液汚染事故の発生に際しては，リスク判断に基づいて対象者と協議し，必要な措置を講じた。B 型肝炎対策としてヘブスブリン（抗 HBs 人免疫グロブリン）曝露後投与を合計 2 件に，HIV 対策として抗 HIV 薬の曝露後予防内服を合計 3 件に実施した。

5. 腸管感染症対応

看護医療学部実習予定者 111 人を対象に便培養検査を実施した。検査対象菌種（赤痢菌，腸管出血性大腸菌 O-157，コレラ菌，サルモネラ属等）に関しては全員陰性だった。

（西村知泰）

第 4．環境衛生業務

学校における環境衛生管理については、学校保健安全法（2009年 4 月 1 日施行）の規定に基づき、「学校環境衛生基準」が定められている。施行後 5 年を経過し、環境衛生に関する新たな知見や児童生徒等の学校環境の変化を踏まえて検討が行われ、一部改正された（2018年 4 月 1 日施行）。これらの基準に基づいて、キャンパス衛生管理者、保健管理センター医師および保健師が、校内巡視および環境測定を行った。

1. 教室等の調査

(1) 実施項目

ア 換気及び保温等および空気清浄度

- | | |
|-----------|---------------------|
| (ア) 換気 | (キ) 二酸化炭素 |
| (イ) 湿度 | (ク) 揮発性有機化合物※1 |
| (ウ) 相対湿度 | ホルムアルデヒド，トルエン，キシレン， |
| (エ) 浮遊粉じん | パラジクロロベンゼン，エチルベンゼン， |
| (オ) 気流 | スチレン |
| (カ) 一酸化炭素 | (ケ) ダニまたはダニアレルゲン※2 |

イ 採光

- | | |
|--------|----------|
| (ア) 照度 | (イ) まぶしさ |
|--------|----------|

ウ 騒音

- | |
|-----------|
| (ア) 騒音レベル |
|-----------|

エ 校内巡視

※1 2006 年度より管財部から業務移行された。

※2 2010 年度より実施

(2) 実施日程（大学・一貫教育校の各「年間主要業務」の頁を参照）

前期 5～8 月，後期 10～1 月に実施（年 2 回）した。

(3) 結果・事後措置概要

ア 温熱環境

季節により、温度や湿度が基準値を超えるまたは基準値を下回る教室が散見された。教室使用时には空調設備や換気扇，加湿器を適切に使用し，教室内の環境を保つよう指導した。

イ 換気・空気清浄度

二酸化炭素濃度が基準値内高値または基準値を上回る教室があるため，定期的に換気扇を稼働させる，授業前後に窓や出入口のドアを開放するように指導した。

ウ 照度・まぶしさ

問題はなかった。

エ 騒音

一部の教室において基準値を上回る教室があった。しかし、換気のため一時的に窓を開放する観点からやむを得ない状況と判断した。

オ ダニまたはダニアレルゲン

問題はなかった。

カ 揮発性有機化合物

問題はなかった。

キ その他

教室や廊下にゴミや私物の散乱が認められたため、教室環境の美化および整理整頓に努め、緊急時避難経路確保を行うよう指導した。

2. 食堂の調査

学校保健安全法に基づいて、食堂環境衛生検査ならびに食堂微生物検査を行い、関係所属長へ報告と改善依頼を行うとともに、食堂管理責任者へ指導を行った。

(1) 実施項目

ア 厨房巡視・聞き取り調査

キャンパス衛生管理者、保健管理センター医師および保健師が、担当地区の食堂を巡視し、食堂施設の状況、設備およびその取扱い状況、食品の取り扱いを含む調理場内の衛生状況、従事者の衛生管理状況、検食の状況等を調査した。

調理場換気扇の錆や油汚れ、設備の破損が認められた地区があり、定期的な清掃と速やかな修繕を指導した。調理場内の室温が高い地区については、作業者の熱中症や細菌・ウイルス繁殖の原因になることから、空調設備の充実や網戸付き窓の開放により気流を高め空気環境の管理に努めるよう指導した。また、一部の施設では水場周囲の床が濡れており、作業者の転倒の危険性もあることから定期的な清掃を指導した。食品等の期限表示管理の徹底を指導した。

イ 微生物検査

冷蔵庫、まな板、作業者手指、台ふきん、直接喫食食品、飲料水、空中落下菌等（一般細菌、大腸菌、黄色ブドウ球菌、大腸菌群の培養検査）の検査を行った。

(ア) ふき取り検査で複数の食堂施設から一般細菌、大腸菌群、一部の施設から大腸菌、黄色ブドウ球菌が検出された。汚染された手指から食材への二次汚染の可能性がある為、手洗い方法を見直して、手指の清潔保持や勤務前の傷の有無と状況確認の徹底に努めるよう指導した。

(イ) 台ふきん、まな板では複数の食堂施設で一般細菌、一部で大腸菌が検出された。台ふきんの頻回の交換と消毒、ふきんの用途の明確な区別を徹底する必要について指導した。

(ウ) 直接喫食食品から一般細菌、大腸菌群、大腸菌が検出された施設があった。0-157は陰性であった。手指洗浄と消毒や手袋装着方法の徹底、調理器具の清潔保持の徹底を指導した。

(エ) 一部の施設で空中落下菌、真菌を認めた。換気などの影響も考えられるが、引き続き空調設備の清掃・点検や24時間換気し、空気環境の管理の励行を指導した。

（中村真理）

第5．教育

1. 大学講義

保健管理センター設置講座では、非医療系学部の学生を対象として生活習慣病、感染症、飲酒の問題、メンタルの問題等、現代社会と深く関わりのある代表的な疾病について、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式の講義を行っている。将来、ヘルスケア関連企業に就職する学生の入門講義になるばかりでなく、健康的な生活を理解し、実践するための保健教育を目的としている。

また、体育研究所設置講座、医学部講座、看護医療学部講座、学生総合センター設置科目、大学院健康マネジメント研究科においても講義を行い、通信教育課程についてはテキスト科目のレポート添削、科目試験のほか、夏期スクーリングも担当している。

2. 予防医療センター

保健管理センター専任医師は人間ドック受診者の当日結果説明および生活指導を交代で担当している。循環器ドック（心臓・血管ドック）および上部消化管内視鏡検査については、結果レポートを作成している。

3. 集団保健衛生教育

(1) 衛生講習会

一貫教育校及び大学における文化祭、イベント等で、食品を扱う模擬店を出店する際には、保健管理センターが細菌性食中毒予防のため、①食中毒について②食材の取扱い方③手洗いの方法④速乾性擦式手指消毒薬およびアルコール含有ウェットティッシュの使用法等について指導を行っている。また、酒類を提供する予定のある大学生に対しては飲酒についての注意喚起も行っている。

(2) BLS（一次救命処置；Basic Life Support）講習会、AED（自動対外式除細動器；Automated External Defibrillator）講習会

慶應義塾に所属している学生、教職員および委託職員に対して救急蘇生法と AED の使用法についての説明、指導を行っている。新型コロナウイルス感染症対策により講習会実施が減少していたが、2024 年度は本部（日吉）にて 3 回、三田分室にて 6 回、湘南藤沢分室にて 15 回、矢上分室と芝共立分室にて 1 回実施した（受講人数合計約 250 人）。

(3) 一貫教育校におけるセミナー・保護者向け講演会

小児・若年者の肥満、高血圧などの生活習慣病は高率に成人の生活習慣病に移行することが知られている。そのため小児・若年者の生活習慣の修正は重要であり、一貫教育校では生活習慣是正のためのセミナーを行っている。また、生徒・保護者・教員を対象に脳震盪・精巣捻転症・熱中症・インフルエンザ等の感染症・心の問題・スポーツ障害等に関する講演会も行っている。

(4) 一貫教育校における授業

一貫教育小中学校における特別授業に加え、2023 年度より湘南藤沢高等部において保健の通年授業を担当している。

（牧野 伸司）

第6．研究

保健管理センターは、慶應義塾の研究所附属機関に位置づけられ、大学・大学院生、小中高一貫教育校児童・生徒、教職員の健康管理および感染症等の管理業務に加えて、健康の保持増進のための教育や研究活動を担当している。

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

慶應義塾から、森正明の「医療機関および教育機関における感染症対策に関する研究」についての功績に対して、義塾賞が贈られた（2024年11月1日）。

(2) 著書・翻訳書・論文・学会発表

2024年度に保健管理センター教職員が執筆した著書は2編、筆頭著者で発表した論文は英文誌2編、和文誌15編であった。保健管理センターの機関誌である「慶應保健研究 第42巻第1号」（2024年9月30日発行）には、学校保健や健康管理等に関する原著論文2編、総説2編、解説6編が掲載された。2024年度に保健管理センター教職員が筆頭演者となった学会発表は、国際学会4題、国内学会13題であった。主な学会として、第62回全国大学保健管理研究集会（2024年10月、会場開催）では、一般演題1題、第70回日本学校保健学会学術大会（2024年11月、会場・WEB開催）では、一般演題3題が発表された。

2. 保健管理センター研究会

2024年度は7回開催した。保健管理センター教職員による研究発表、第62回全国大学保健管理研究集会および第70回日本学校保健学会学術大会の予演会などをWEB開催した。

3. 保健管理センター研修会

2024年度は実施しなかった。

（井ノ口美香子）

(第 7. 会議, 第 8. 関連資料は資料編のみ)

第 9. 慶應義塾診療所

2024 年度は、診療所長の交代はなかったが、三田地区診療所薬剤師が五十嵐美帆薬剤師から金森翔平薬剤師に 11 月 1 日で交代した。日吉・三田・湘南藤沢・矢上診療所の受診者数は合計 2,982 件（学生 1,475 件、教職員 1,503 件、その他 4 件）で、前年度と比較し 70 件増で、学生、教職員とも 34 件増であった。全体的に内科診療は微増であった。

精神科は矢上診療所を除く 3 診療所で診療を行っている。受診者数の合計は 925 件（学生 771 件、教職員 153 件、その他 1 件）で、昨年より 109 件減。全体的に 1 割減少した。受診枠が少なくなったことが原因である。

(中島清隆)

Ⅱ 資料編 第6．研究

1. 保健管理センター教職員研究業績
2. 保健管理センター研究会
3. 保健管理センター研修会

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

森 正明

1) 義塾賞

受賞理由：医療機関および教育機関における感染症対策に関する研究

受賞日：2024年11月1日

(2) 著書・翻訳書・論文・学会発表

ア 著書

1) 井ノ口美香子, 後藤伸子, 武田彩乃, 西村知泰, 西村由貴, 広瀬寛, 牧野伸司, 森正明, 康井洋介, 横山裕一, 他：新・保健衛生（初版）. 慶應義塾大学出版会, 2024

2) 康井洋介: 学校での感染対策. インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症診療ガイド 2024-25. 日本医事新報社, 179-184, 2024

イ 論文

1) Adachi K, Sei N, Yamada-Goto N, Murai-Takeda A, Inokuchi M, Mori M, Hirose H, et al.: Secular trends in blood pressure among university students in Japan over the last two decades. *Hypertens Res*, 48(2):613-621, 2025

2) Cai L, Shinohara N, et al.: Functional reorganization of brain regions supporting artificial grammar learning across the first half year of life. *PLoS Biol*, doi: 10.1371/journal.pbio.3002610, 2024

3) Hosoda K, Nishimura T, et al.: Mavintramycin A is a promising antibiotic for treating *Mycobacterium avium* complex

infectious disease. *Antimicrob Agents Chemother*, 68(3): doi: 10.1128/aac.00917-23, 2024

4) Kaji M, et al.: The first Japanese case of autosomal dominant cutis laxa with a frameshift mutation in exon 30 of the elastin gene complicated by small airway disease with 8 years of follow-up. *BMC Pulm Med*, 24(1): 481, 2024

5) Kishimoto T, Sado M, et al.: Live two-way video versus face-to-face treatment for depression, anxiety, and obsessive-compulsive disorder: A 24-week randomized controlled trial. *Psychiatry Clin Neurosci*, 78(4): 220-228, 2024

6) Koreki A, Sado M, et al.: The association between salivary IL-6 and poor sleep quality assessed using Apple watches in stressed workers in Japan. *Sci Rep*, 14(1): 22620, 2024

7) Ohnishi T, Kinoshita M, et al.: Impact of COVID-19 on paediatric care in Japan: Analysis of national health insurance claims data. *Acta Paediatr*, 00: 1-8, 2024

8) Sado M, et al.: Cost-effectiveness analysis of mindfulness-based cognitive therapy in patients with anxiety disorders in secondary mental health care settings alongside a randomized controlled trial. *Front Psychiatry*, 15: 1391786, 2024

9) Shigeno S, Nishimura T, et al.: New polycyclic tetramate macrolactams with antimycobacterial activity produced by marine-derived *Streptomyces* sp. KKMA-0239. *J Antibiot (Tokyo)*, 77(5): 265-271, 2024

10) Uchida S, Nishimura T, et al.: Factors affecting motivation for receiving a booster dose of the COVID-19 vaccine among

Japanese university students and staff: a cross-sectional questionnaire survey. Sci Rep, 14(1):doi: 10.1038/s41598-024-58603-9, 2024

11)Uwamino Y, Nishimura T, et al.: Minimum inhibitory concentrations of azithromycin in clinical isolates of Mycobacterium avium complex in Japan. Microbiol Spectr, 12(6):doi: 10.1128/spectrum.00218-24, 2024

12) Uwamino Y, Nishimura T, et al.: Optimal incubation duration of liquid cultures for assessing culture negative conversion in patients with Mycobacterium avium complex and Mycobacterium abscessus pulmonary diseases. Eur J Clin Microbiol Infect Dis, 44(1): 45-51, 2025

13)Yamaguchi S, Kosugi S, et al. : Safety and efficacy of long-term nicotinamide mononucleotide supplementation on metabolism, sleep, and nicotinamide adenine dinucleotide biosynthesis in healthy, middle-aged Japanese men. Endocr J, 71(2): 153-169, 2024

14)井ノ口美香子: 肥満, やせの治療戦略. 小児内科, 56(2) : 267-269, 2024

15)井ノ口美香子: やせ・摂食障害 一学校保健室の果たす役割一. 学校救急看護研究, 17(1) : 11-18, 2024

16)井ノ口美香子: 小児のやせと肥満一心身症としての位置づけとアプローチ. 慶應保健研究, 42(1) : 19-25, 2024

17)内田敬子, 井ノ口美香子, 篠原尚美, 河津桃子, 康井洋介, 他: 学校医による小中学生に向けた健康情報の提供法. 慶應保健研究, 42(1) : 51-58, 2024

18)加藤 則子, 井ノ口美香子, 他: 肥満小児が非肥満児より高い身長を呈しやすい年齢に関する検討. 日本成長学会雑誌, 30(1) : 27-37, 2024

19)河津桃子, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 康井洋

介, 篠原尚美, 佐藤幸美子, 木村奈々, 山岸あや, 他: 新型コロナウイルス感染症対策後の小学生の視力低下 (第 2 報). 慶應保健研究, 42(1) : 27-32, 2024

20)木村奈々, 康井洋介, 井ノ口美香子, 篠原尚美, 河津桃子, 徳村光昭, 他: 本邦の中学生女子の HPV ワクチン接種率の推移ーワクチン行政変遷との関連一. 慶應保健研究, 42(1) : 33-37, 2024

21)佐渡充洋: 学会の印象ー日本不安症学会／日本認知療法・認知行動療法学会 (合同開催). 精神療法, 50(6) : 967-968, 2024

22)佐渡充洋: 健康経営とポジティブメンタルヘルスーマインドフルネスを中心に一. 最新精神医学, 29(6) : 385-390, 2024

23)佐渡充洋: 働く人のためのマインドフルネスーネガティブ・ケイパビリティの文脈から考える. 職場がアブナイ, 29-35, 2024

24)佐渡充洋: マインドフルネス認知療法 [原著第 2 版] うつのための基礎と実践. 精神療法, 50(2) : 286-287, 2024

25)佐渡充洋: 企業風土の変容とマインドフルネス. 精神療法, 51(1) : 40-44, 2025

26)篠原尚美: 小児の傷害予防ー我が国における現状と課題一. 慶應保健研究, 42(1) : 71-74, 2024

27)當仲香, 長井瑠菜, 外山千鈴, 岩渕望, 刈田未来, 松本可愛, 澁谷麻由美, 久根木康子, 武田彩乃, 西村知泰, 横山裕一, 他: 信濃町キャンパスにおける麻疹, 流行性耳下腺炎, 風疹, 水痘, B 型肝炎の免疫に関する証明書 (Immunization record) の管理とデータ利活用. 慶應保健研究, 42(1) : 75-81, 2024

28)広瀬寛, 後藤伸子: 若年者集団 (大学生) における肥満や痩せの諸問題. 慶應保健研究, 42(1) : 45-49, 2024

29)森正明, 西村知泰, 加治正憲, 齋藤圭美: COVID-19 の分類変更以降の学校感染症登校許可証明書ー信濃町地区を除く学生・教職員用ーー COVID-19 パンデミックによる影響をふまえて一. 慶應保健研究, 42(1) : 39-44, 2024

30) 康井洋介, 井ノ口美香子, 篠原尚美, 河津桃子, 武田彩乃, 後藤伸子, 徳村光昭, 他: 学校における熱中症予防に関する啓発活動—動画をを用いた熱中症予防活動の実践報告—. 慶應保健研究, 42(1): 59-69, 2024

31) 横山裕一: 代謝機能不全に伴う脂肪肝の病態に関連する肝臓の中性脂肪・脂肪酸動態. 慶應保健研究, 42(1): 7-18, 2024

ウ 学会発表

1) 井ノ口美香子, 他: 「不健康やせ」のスクリーニング基準の検討 第3報—BMI SDS 基準の1 縦断的コホートへの適用 第57回日本小児内分泌学会 2024

2) 井ノ口美香子: 女性の bone health —小児の神経性やせ症 第97回日本内分泌学会 2024

3) 上養義典, 西村知泰, 他: 医療従事者における2023/2024 インフルエンザワクチン接種前後抗体価の経時的評価 第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会合同学術集会 2024

4) 加治正憲, 他: 肺非結核性抗酸菌 (NTM) 症の胸部CTを用いた気道病変の形態的定量評価 第64回日本呼吸器学会学術講演 2024

5) Kaji M, et al: Morphological Quantitative Evaluation of the Airway Using Supine and Upright Computed Tomography in Patients With Non-cystic Fibrosis Bronchiectasis and Nontuberculous Mycobacterial Pulmonary Disease. ATS (American Thoracic Society), 2024

6) 河津桃子, 康井洋介, 徳村光昭, 篠原尚美, 佐藤幸美子, 木村奈々, 山岸あや, 井ノ口美香子: 小学生の視力低下, 眼位異常の推移—新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策の影響— 第70回日本学校保健学会学術大会 2024

7) 喜田素子, 後藤伸子, 他: 肥満症外来における減量と代謝指標変化の検討 第45回日本肥満

学会・第42回肥満症治療学会学術集会 2024

8) Kosugi S, et al.: Vascular endothelial NAMPT-mediated NAD⁺ biosynthesis regulates whole-body blood pressure and insulin resistance in aging. The Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSOT 2024

9) 後藤菜穂, 佐渡充洋, 他: マインドフルネスの継続を支援するウェブサイトの作成および運用の可能性に関する探索的検証 日本不安症学会／日本認知療法・認知行動療法学会 2024

10) 後藤伸子, 武田彩乃, 広瀬寛, 石渡景子, 加治正憲, 西村知泰, 牧野伸司, 横山裕一, 森正明, 他: 日本の大学新入生における平均血圧と正常血圧群の推移 第121回日本内科学会総会・講演会 2024

11) 坂本龍之介, 西村知泰, 他: 簡易迅速診断法を応用したクラリスロマイシン耐性 Mycobacterium avium complex 検出法の開発 第98回日本感染症学会総会・学術講演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会 2024

12) 佐渡充洋, 他: マインドフルネス認知療法—脱中心化に理論と実践の両面からアプローチする— 日本不安症学会／日本認知療法・認知行動療法学会 2024

13) 佐渡充洋: 二重プロセス理論からみるマインドフルネス認知療法における意識化 (気づき) 日本不安症学会／日本認知療法・認知行動療法学会 2024

14) 佐渡充洋: マインドフルネス「新たな課題と挑戦」——主に臨床的観点から 日本マインドフルネス学会第11回大会 2024

15) 佐渡充洋: 職域におけるマインドフルネスプログラムの適用と課題 第32回日本産業ストレス学会 2024

16) Sado M, et al: Effectiveness of Online Brief Mindfulness-based Cognitive Therapy for the Improvement of Productivity in the Workplace: the Results of a Randomized

Controlled Trial International Conference
on Mindfulness 2024

17) Sado M: Lecture “How to make a poster”
The 22nd Course for Academic Development of
Psychiatrists 2025

18) 高尾浩之, 葭葉茂樹, 他: 心室中隔欠損症を
伴う 18 トリソミー児に対する肺動脈絞扼術の有
効性について 第 60 回日本小児循環器学会総会
2024

19) 武田彩乃, 井ノ口美香子, 後藤伸子, 中村真
理, 河津桃子, 河野恵梨子, 福富千尋, 室屋恵子,
木村奈々, 広瀬寛: 女子高校生の健康管理におけ
る月経問診票の有用性 第 70 回日本学校保健学
会学術大会 2024

20) 田中拓, 西村知泰, 他: 感染症・抗酸菌症の
基礎 Sectmla は肺炎球菌感染時に $\gamma\delta T$ 細胞
の IL-17A 産生を抑制し細菌排除に影響を及ぼす
第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 2024

21) 豊浦文, 後藤伸子, 他: 重症肺高血圧症合併
高度肥満症症例に対する内科的アプローチ-約
10 年の経過報告 第 45 回日本肥満学会・第 42
回肥満症治療学会学術集会 2024

22) 長井瑠菜, 横山裕一, 久根木康子, 松本可愛,
高橋綾, 澁谷麻由美, 大山晶子, 弦巻美保, 和田
みどり, 渡邊沙也佳, 森正明, 西村知泰, 広瀬
寛: 乳幼児期に接種した B 型肝炎ワクチン接種
の問題点と本邦大学に求められる対応 第 62 回
全国大学保健管理研究集会 2024

23) 永岡麻貴, 佐渡充洋, 他: 健常労働者に対す
るマインドフルネス認知療法の費用便益分析
日本マインドフルネス学会第 11 回大会 2024

24) 鍋嶋泰典, 葭葉茂樹, 他: 小児期の Fontan 術
後洞不全症候群に対する介入の適応とタイミン
グについて 第 60 回日本小児循環器学会総会
2024

25) 室屋恵子, 井ノ口美香子, 後藤伸子, 武田彩
乃, 河津桃子, 河野恵梨子, 福富千尋, 木村奈々,
広瀬寛: 問診票を用いた生徒の月経随伴症状等
の早期発見及び保健指導等の実践報告 第 70 回

日本学校保健学会学術大会 2024

26) 康井洋介, 室屋恵子, 福富千尋, 河津桃子,
篠原尚美, 井ノ口美香子: 2023 年夏から秋にか
けて 3 回のピークを認めた神奈川県内の中学校
一校におけるインフルエンザ流行に関する検討
第 71 回日本小児保健協会学術集会 2024

27) 山田成志, 佐渡充洋, 他: 医療者に対するマ
インドフルネス療法基礎ワークショップの実施
可能性に関する研究 日本マインドフルネス学
会第 11 回大会 2024

28) Yotsukura E, Inokuchi M, et.al: Axial
length elongation and associated factors
among junior high school students in Tokyo
before and after the COVID-19 pandemic.
2024 International Myopia Conference 2024

29) 湯浅絵里佳, 葭葉茂樹, 他: IVC 閉塞のため
ハイブリッドで心房間ステントを留置した, 低
出生体重の HLHS の一例 第 60 回日本小児循環
器学会総会 2024

編集後記

慶應義塾大学保健管理センター年報 2024 年度版が完成いたしました。2024 年度も大きなトラブルなくセンターを運営出来たことは、ご支援、ご協力をいただいた関係者の皆様のお陰であり、この場を借りて感謝申し上げます。

過去 3 年は新型コロナウイルス感染症が一番の話題でした。新型コロナウイルス感染症が感染症法の 2 類感染症から 5 類感染症に引き下げられてから約 2 年経ち、大きく取り上げられなくなった現在、さて何を書こうかと思いましたが、冬にはインフルエンザが猛威を振るい、感染性胃腸炎や麻疹なども全国的に流行したこともあり、感染症から逃れることは無いと実感しました。2024 年の訪日外国人旅行者数が過去最高の 3,600 万人を超えたという報道があり、観光地では多くの観光客があふれオーバーツーリズムも問題となっています。人が集まると、それに比例して感染症も増え、さらに外国から持ち込まれる感染症も危惧されます。新型コロナウイルス感染症の様に、死亡率が高い感染症は勘弁いただきたいですが、新たなウイルスや日本では稀な感染症が流行することは、ある程度予想されます。学校保健を担っている部署として、引き続き情報収集と注意喚起など、感染症に注視しなければと思いました。

こちらも話題になりましたが、2024 年の児童生徒の自殺者が過去最高になったそうで、原因、動機では、学業不振や進路の悩み、友人との不和といった「学校問題」が最も多く、「健康問題」、「家庭問題」と続くとのこと。慶應義塾一貫教育校では、各校にカウンセラーを配置し相談窓口がありますが、全体的には相談者が年々増えています。相談者が増えていることは悲観的に思われますが、友人や親、教師ではない相談できる場所が近くにあること、ハードルが低いことは重要と考えます。また、産業保健でもメンタル不調を来す職員が増えています。年代や性別によって原因は様々と思いますが、産業カウンセラーへの相談件数は増えていないのが実情です。対策の一つとして相談しやすい環境を整備することも大事ですが、上司や周りのスタッフが変化に気づいて声掛けをして、産業医につなげるなど早期の対応が最も大切だと思います。日頃のスタッフ同士の良好なコミュニケーションづくりは上司の役割が大きいので、管理職への教育も重要であると思いました。

私が保健管理センターに着任してから 3 年が経過しますが、悩ましい問題や課題が非常に多いと感じています、その都度保健管理センタースタッフや関係部署と連携して対応してきました。今後も様々な問題、課題が出てくると思われますので、ご支援いただいている関係各所には、引き続きご協力および指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

慶應義塾大学保健管理センター年報編集委員会

中島 清隆

年報編集委員会

編集委員長	西村知泰	
編集委員主幹	井ノ口美香子	外山千鈴
	本莊直子	高橋綾
	齋藤圭美	中島清隆
編集委員	広瀬寛	牧野伸司
	武田彩乃	康井洋介
	後藤伸子	中村真理
	山本聡子	阿部さゆり
	木村奈々	松本可愛
	室屋恵子	澁谷麻由美
	武藤志保	大山晶子
	弦巻美保	神岡美穂
		(順不同)

慶應義塾大学保健管理センター年報 2024

2025年8月31日発行

〔非売品〕

発行人 広瀬 寛

慶應義塾大学保健管理センター

〔〒223-8521〕

横浜市港北区日吉4丁目1-1

電話045-566-1055

印刷・製本 (有)梅沢印刷所
